

四谷の

千枚田だより



第 65 号

千古不枯 初日に満ちる
湧き水の棚田に廻る
季を思い 四谷柳二

連谷地区新年祝賀会

一月三日、午後五時から連谷分館
コミュニティ主催の連谷地区新年
祝賀会（地元参加者四十人）が開か
れ、来賓として峰野県議、穂積市長、
加藤、森市議を招き、和気藹々に新
年の祝賀会が催された。

来賓祝辞

峰野県議員

明けましておめでとうございま
す。常日頃から愛知県議という立場
でこの地域のことを考えさしてい
ただいております。アメリカ発のサ
ブプライムローンの崩壊が日本経
済を直撃。大きな影響を与えていま
す。愛知県においても平成二十一年
度の県税収入は二千七百億減とも
いわれ、平成十一年を遙かに上回る
かつて、経験のしたことの無い県政
非常事態であります。

奥三河にとって大切な県事業が
目白押しであります。「森と緑づく
り」ということで間伐を行います。
これは保証された特定財源ですの
で、必ずやります。この事業のうち
年間六億が人件費と考えていただ
ければ、実際の地域への影響力はも

のすごく大きなものと思えますの
で、是非、この連谷地区の皆様も前
向きに、積極的に受け止めていただ
き、この地域ではどういう事業が可
能か、地域の代表の方と事業のプラ
ンをしっかりと立っていただくの
がいいじゃないかと思えます。

先ほど、分館長さんの挨拶にもあ
りましたようにイノシシ、サル、の被
害対策としては上平井地区など、地
域の限定でモンキードックの導入
とか、市全域では電柵など、被害対
策に取り組んでいます。

里山保全に付いては私も委員に
入っており、その先頭に立たせてい
ただいております。今、愛知県では
里山に関する条例が四つあります。
その条例を、整合性を持たして居住
区と近くの山、自然を守っていくた
めに検討されています。

愛知県が東三河、奥三河を何とか
しましょうと、これだけしっかりと
た形で力を注ぐのは初めてだと思
います。せっかくの機会でありまし
たのでいろいろお話をさせていた
だきました。本日はおめでとうござ
います。

穂積新城市長
明けましておめでとうございま

す。市長の穂積です。
毎年この連谷地区の新
年祝賀会にお招きいた
だき、本当に有り難う
ございます。

こうして、年に一度で
はありますが、皆様がお揃いでお元
気なお顔をお見受けする事が大変
楽しくございます。

思い起こせば、四谷の千枚田でサ
ミットが開かれたのが二 五年
でございます。その後 六年が日
南市、七年が茂木町、そして昨年
が長崎・雲仙市という形で年を重ね
てまいりました。

新城市は合併で非常に広くなつ
た地域でも四谷の千枚田、あるいは
連谷地区のあり方というものが、市
全体にとっても大きな財産と言い
ますが、アピールする拠点になつて
きていると思えます。それは、市の
広報誌、あるいは観光情報などで幅
広く取り上げられていることが、ま
た、地域の皆さんが中心となつて盛
り立てていただいている訳です。

今、峰野県議が大変厳しい中での
お話がありました。私もも全く同
じ気持ちです。これから私も中
山間地農林業ですとか、観光・文化
ということが、どれだけ多くの人材
を獲得できるか、これに地域発展に
係っているように思います。ちよう
ど、サブプライムやなにやらで経済
状況が大変落ち込んでいますが、逆

に職を失ったような人達、或いは新
天地をこれから求めて行くことす
る人達、こうした魅力のある情報発
信の場が、地域がこぞって新しい力
を受け入れて、それとともに発展を
して行くこととする姿勢が、訴えて行
かなければ我々が又、新しい出発が
できないではないかと思えます。

今年、正月は比較的穏やかな三
が日でございますが、連谷地区の
皆さんの生活を、一年を通してこの
ように穏やかであることを願って
やみません。しかし、同時に財界は
大変厳しいものでございますが、
色々、影響を受ける人が避けられな
いと思えますが、なによりも助け合
い、それ以上、全体の力がこの四谷
の千枚田を蘇らせたように新城市
全域を、市民が手をつないで行く、
そういう町づくりをしていきたい
と思っております。

私も市長、市会議員、一期四年
間の区切りを迎える訳ですが、この
四年間、どうであったか、それぞれ
私も恥じない仕事をしてきたつ
もりではあります。その評価をい
ただくのも皆様の評価、評点をいた
だく訳でございます。そういう年に
当たりまして、改めまして連谷地区
の皆さんの益々のご発展をお祈り
すると共に新しい新城市のために
お力をお貸し頂きますように重ね
てお願い申し上げます。新年のご挨拶
にいたします。

にほんの里百選

朝日新聞は昨年「にほんの里百選」を企画、募集したところ全国から四千四百七十四件の応募があり一月六日、九十八ヶ所の選定地区を公表した。その一つとして海老地区の川売が「梅林が集落を包む桃源郷千五百本の梅林が十五戸の集落を包む。梅干しは特産品となった。山に炭焼きの風景が残る。梅林を流れる川はアマゴも生息。」として認定された。



雪けむる、梅の里 小山舜二

〔新美術協会展 1994 東京都美術館出展〕

やまびこの丘伝承館常設展示

四谷の千枚田も募集要項の景観、生物多様性、人の営みの三つの条件を満たし、都市交流など知名度も高く、締め切り間際の三月に応募してみた。(その時点の応募件数は四百件弱であった)選定期間中、愛知県に

COPIO(生物多様性条約第十回締約国会議招致活動のホームページ)冊子に掲載。同社の「街道新話」では八ヶ掛の千枚田が全紙を飾るなど、優位性は充分あり認定確実と鷹を括ったが「かすり」もなかった。それにしても、「川売」が認定されたことは同じ地域の者として嬉しいことである。

農作物鳥獣害対策研修会

一月九日、県農水部主催で平成二十年農作物鳥獣害対策研修会が豊川市音羽文化センターで開かれ、関係市町村の獣害対策担当職員および被害重点地域の住民二百二十人が研修を受けた。連谷地区からは村雲宣充四谷区長、原田武典連谷分館長、今泉雅男、小山舜二が受講した。講演「野生鳥獣の行動および被害防除について」近畿中国四国農業研究センター鳥獣害研究チーム

主任研究員 江口祐輔氏

「知見抜粋」

- ・電柵の効果は大きいが碍子は必ず表側に付ける。
- ・アスハルトやコンクリートは通電が少なくショックが少ない。
- ・防除網などの押さえに石は置かないこと。イノシシは石の下に餌があるものと思う。
- ・赤色灯などの防除対策が施されて

いるが赤色は認識しない。青は認識。サル防除網は高さ二メートル以上、飛ぶ巾も二メートル以上とする。

・柿や果物など収穫しない物は作らないこと。野菜屑など餌になるような物は捨てないこと。誘因の原因となる。等々

「害獣駆除はしても被害は減らない。野生動物が嫌う環境を作る等、有効な対策が必要」と締めくくった。

むらの伝承文化顕彰報告書

農山漁村地域には地域資源としてその土地の暮らしの中で受け継がれてきた風俗慣習、芸能、行事、そして技は、地域の象徴、誇りと愛着を持ってきた貴重な文化資源である。しかし、近年の社会構造の変化、急速な過疎化、高齢化の進展でこの貴重な伝統文化が消滅、継承が危惧されている。農水省、オーライ・ニッポン会議、都市農山漁村交流活性化機構(主催)では平成十三年度から十九年度まで応募、表彰事業に取り組んできた。



第一回から七回までの「むらの伝承文化」応募事例 編集編がむらの伝承文化顕彰 報告書(北海道・沖縄県 291例 A4版 212ページ)として発行された。

この報告書で、身平橋の盆踊り、西組共進連の「はねこみ」が事例紹介されている。

げなげな囃

安閑様

境場(連谷)の真田さんの裏にやあ、お御坂があつてのん、そりよお上ると安閑天皇を祭神とせるお社跡があるのをあんた知つてるかん。ふん、聞いたことあるよつな気がするがなんだったかいのん。あそこにはあのおん第二十七代安閑天皇の息子(生誕四六六年)がやあ、若い時にのん、ちよつとおつただげなぞん、そいでやあ、六十七才で第二十八代安閑天皇在位わずか三年で崩御)になったちゆうどいらい人が居つたことだつただぞん。今でも金峯神社の辺のハルはやあ、半分が皇室所有地で、半分は国有地だつちよぞん。ほ、そいじゃあ税金はいらんだのん。???

「金峯神社跡は払い下げられ海老神社が管理している」

行 平成二十一年一月十五日

鞍掛山麓千枚田保存会

発行 文責 小山舜二